

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-2009	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート調査(宮城)、三世代コホート調査に参加した成人対象者約96,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、検体検査情報、ゲノム情報		
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-		
研究題目	肥満を有する対象者のクラスター化と肥満の遺伝的要因の解明			研究期間	2022年3月～2025年3月		
実施責任者	栗山進一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授	
研究目的と意義	<p>肥満は様々な要因が関連している多因子疾患であり、肥満に関連する運動や栄養素摂取量などの外的要因に対する感受性も個人によって異なります。また、肥満は高血糖を伴う肥満や、高脂血症を伴う肥満など様々な表現型を有しています。よって、対象集団を均質な集団に分けた上で遺伝的要因を検討する必要があります。</p> <p>本研究では、肥満の対象者さんを肥満の表現型と環境要因別に分類したうえで解析を行い、肥満の特性に応じた肥満関連遺伝子を同定することを目的としています。</p>						
研究計画概要	<p>本研究では地域住民コホート調査の特定健診相乗型(宮城県の対象者さん)と地域支援センター型に参加している対象者さん約56,000人と、三世代コホート調査に参加している対象者さんのうち、お子さんの母親、父親、祖父母の約40,000人を研究の対象とします。本研究ではBodymassindex[体重(kg)]÷[身長(m)の2乗]が25以上を肥満と定義し、肥満の対象者さんを調査票や血液検査から得られた肥満の表現型や環境要因の情報を用いて肥満の特性ごとに分類したうえでゲノムワイ関連解析(GWAS)を実施します。GWASとは、病気と関連のある遺伝子を網羅的に探索する解析手法です。本研究ではこれまでに得られたゲノムデータ(SNPアレイデータ)を用いてGWASを実施します。</p>						
期待される成果	これまで特定されてこなかった肥満関連遺伝子を特定することで、人類の健康に貢献することが期待されます。						
これまでの倫理 審査等の経過	2022年2月東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認						
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針を遵守するとともに、試料・情報の利用にあたっては、ToMMoが定めるセキュリティポリシーを遵守し、スーパーコンピュータ内に限って利用します。						
その他特記事項	大学運営費交付金						

※公開日 令和4年3月30日